

4. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

全学（大学院）的観点から見た回答の傾向

全学（大学院）のアンケート結果集計表をもとに、全体の回答傾向を検討した。

① 学位取得のための道筋が明確に示されている

全学の平均は 4.33 であった。「発達・学校心理学専攻」の 5.00、「臨床心理学専攻」の 4.44、「応用英語」の 5.00 は平均を上回っていた。「人間文化専攻」は 4.33 であったが、「生活福祉文化専攻」は 3.71 と平均より低かった、

② 提示されたカリキュラムは納得いくものである

全学の平均は 4.15 であった。「発達・学校心理学専攻」と「応用英語専攻」はともに 5.00 であり、「人間文化専攻」が 4.17 で平均を若干上回り、「臨床心理学専攻」が 4.13、「生活福祉文化専攻」が 3.71 で平均より低かった。

③ 授業時間割はバランスよく配置されている

全学の平均は 3.70 であった。「応用英語専攻」は 5.00 で「人間文化専攻」は 4.00 で「臨床心理学専攻」は 3.81 で平均を上回り、「発達・学校心理学専攻」は 3.33、「生活福祉文化専攻」は 3.14 で平均を下回った。

④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている

全学の平均は 4.12 であった。「応用英語専攻」は 5.00 で「発達・学校心理学専攻」と「人間文化専攻」はともに 4.33 で「生活福祉文化専攻」は 4.14 で平均を上回っていた。「臨床心理学専攻」は 3.93 で平均を下回っていた。

⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている

全学の平均は 3.94 であった。「応用英語専攻」は 5.00 で「人間文化専攻」は 4.33 で「発達・学校心理学専攻」は 4.00 で平均を上回っていた。「生活福祉文化専攻」は 3.86 で「臨床心理学専攻」は 3.75 で平均を下回っていた。

⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている

全学の平均は 4.24 であった。「応用英語専攻」と「発達・学校心理学専攻」は 5.00 で「人間文化専攻」は 4.50 で「生活福祉文化専攻」は 4.29 で平均を上回っていた。「臨床心理学専攻」は 3.94 で平均を下回っていた。

⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている

全学の平均は 4.00 であった。「応用英語専攻」と「発達・学校心理学専攻」は 5.00 で「人間文化専攻」は 4.33 で平均を上回っていた。「臨床心理学専攻」は 3.75 で「生活福祉文化専攻」は 3.71 で平均を下回っていた。

⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている

全学の平均は 3.12 であった。「応用英語」は 5.00 で「人間文化専攻」は 4.17 で「発達・学校心理学専攻」は 3.67 で「生活福祉文化専攻」は 3.14 で平均を上回っていた。「臨床心理学専攻」は 2.50 で平均を下回っていた。

